

【連絡事項】

- ・ 8時30分より開場、本部で受付を行う。
- ・ 9時00分より本部前で抽選、代表者会議を行う。
- ・ 各チームで試合球を準備し、受付時に本部へ提出すること。
男子：モルテン（V5M5000） 女子：ミカサ（V300W）
- ・ 優勝・準優勝チームに賞状を授与する。
- ・ 本大会での順位に基づき、大阪府ヤングクラブバレーボール連盟として、「JVA第28回全国ヤングクラブバレーボール大会」・「第17回近畿U-14クラブバレーボール交流大会」への推薦チームを決定する。なお、原則として全国大会に推薦するチームは近畿大会に推薦しない。
- ・ **会場の駐車場は各チームで4台まで認める。事前に配布した駐車許可証をダッシュボードなどに掲示すること。許可証がある4台以外の車の乗り入れ、会場近隣店舗・道路等での乗り降りや路上駐車などの迷惑行為は絶対にしないこと。これらの行為が確認された場合は、試合結果にかかわらず、全国大会・近畿大会への推薦を取り消す場合がある為、チーム関係者で十分確認すること。**
- ・ 会場施設のルールを遵守すること。
- ・ ゴミは各自で持ち帰ること。
- ・ 選手の健康管理については、チーム及び個人の責任として管理すること。
- ・ 選手・スタッフのケガについては、本大会で団体加入する保険以外、一切責任を負うことができない為、各チームでの保険加入や十分な安全対策を講じること。

【チーム構成】

- ・ 大阪府ヤングクラブバレーボール連盟に有効に登録された選手・スタッフで構成されたチームであること。選手の年齢基準は2025年4月2日現在とする。
- ・ 引率責任者は成人であること。
- ・ チームの人数は、部長・監督・コーチ・マネージャー・トレーナー・ドクター各1名と**選手18名以内（そのうちリベロは最大2名）**とする。
- ・ 競技中、コート上の6名の選手を同一学校の選手で構成することは意図的・意図的でないに関わらず不可とする。ただし、大会委員長が認めた場合を除く。
- ・ 監督およびコーチは公益財団法人日本スポーツ協会指導者資格（コーチ1からコーチ4）を有していること。コーチについては、2025年10月付けで認定される場合は有資格者として認める。
- ・ コートオフィシャルは割り当てに基づいて行う。主審・副審はチームスタッフが行うこと。**全国大会に基づき、チームスタッフのうち1名以上が審判有資格者であることを強く要望する。**

【競技規則】

- ・ 2025年度公益財団法人日本バレーボール協会競技規則に準ずる。
- ・ 男女ともにトーナメント戦を行う。
昨年の優勝・準優勝チームをシードとし、その他チームは抽選により組み合わせを決定する。
- ・ 第1・第2セットは**21点先取**、第3セットは**15点先取**とし、デューズ制は採用しない。
- ・ 各チームの初戦のみ公式練習を行う。
- ・ 各セットに給水のためのタイムアウトを設ける。第1・第2セットは11点先取、第3セットは8点先取した時点で30秒間適用する。

- ・ リベロプレーヤーはチームの他の競技者とはっきりと区別できる対照的な色のユニフォームを着用すること。また、負傷等によるリベロの再指名の場合を除いてリベロのビブス着用は認めない。
- ・ 試合の進行状況に応じて、特別ルールを設定することがある。

【審判上の注意事項】

- ・ ポジションについて
サービスヒットの瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内に位置していなければならない。レシービングチームの選手はサービスヒット時、ローテーション順に位置していなければならない。サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよい。
- ・ ネットを通過するボールについて
ボールを取り戻すとき、ボールの全体または一部は再びコートの同じ側の許容空間外からネット垂直面を越えなければならない。そうでない場合はボールアウトとなる。
チームが2回目または3回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外を通過して相手フリーゾーンに行った場合は、ボールを取り戻すことはできない。ボールがネット垂直面を超えた時点でアウトとなる。
- ・ ネット近くの選手の反則について
相手チームのアタックヒットの前または同時に、選手が相手空間でボールもしくは相手選手に触れたとき、オーバーネットの反則となる。
- ・ スクリーンについて
サービングチームの選手は、サービスボールがネットを超えるまで、手を頭より上に上げてはならない。
意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。
- ・ タイムアウトについて
タイムアウトは30秒であるが、選手は30秒を待たずにコートに戻ってもよい。ただし、タイムアウトの時間が短くなることはない。（給水のためのタイムアウトは30秒を待ってからコートに戻る。）
- ・ うちわの使用について
「給水のためのタイムアウト」を採用している場合において、うちわの使用を認める。ただし、使用はセット間、タイムアウト、給水のためのタイムアウトのみとする。
うちわの柄や数、大きさに規定はないが、極端に大きいものや華美な装飾のあるものは避けること。
- ・ ワイピングについて
試合中のワイピングは、コート上にいる選手で行う。（スモールタオルを携帯した選手がコート上に2～3名いることを推奨する。）タイムアウト中及びインターバルは、自チームで行うこと。（柄付きモップの使用可。）
- ・ その他 次の様な場合も、遅延となる場合があるので注意すること。
靴ひもを結ぶために、ラリーの開始を遅らせること。
ワイピングや汗で濡れたボールの交換を行う間、ラリー開始を遅らせるようなミーティングを行うこと。